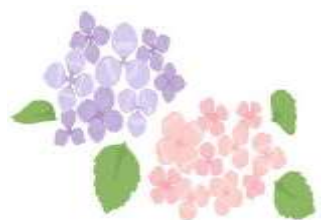


進路指導部通信

県立高等特別支援学校
進路指導部
2018. 6. 1 NO. 2



先週末、1年生の校内実習及び特別実習、2～3年生の現場実習が終わりました。個々に実りのある実習になったでしょうか。実習期間中の取り組みももちろん大事ですが、実習後の振り返りも非常に大事です。この時期にしっかり振り返り、自分の課題が何か知り、課題克服に向けて気持ちを引き締める機会としましょう。

学校生活で学んだことを実習中に発揮することができたのか？実習中に指導されたことはなかったか？指導して頂いた時に、素直に聞き、すぐに改めることはできたのか？実習をしっかり振り返って自分の課題を見つめ直し、今後の学校生活にいかして欲しいと思います。そこで、今回の実習を振り返り、生徒の皆さんは次のチェック表に○×を入れて自己評価してみましょう。

| | チェック表 | ○× |
|---|----------------------------|----|
| 1 | 遅刻・欠勤なく、2週間実習に行くことができた | |
| 2 | あいさつ・返事をしっかりすることができた | |
| 3 | 始業時間や休憩時間の時間を守ることができた | |
| 4 | メモをとることができた | |
| 5 | 礼状を期日守って提出することができた | |
| 6 | コメント記入や礼状書きを保護者に依頼することができた | |
| 7 | 実習後、学校にも一週間休まず登校することができた | |
| 8 | 今後の進路に向けて、自分の課題を言うことができる | |

どれも当たり前のことばかりですが、この当たり前のことができていることがとても大事です。本校の生徒はある程度の力がある人が多いので、2週間程度の実習ではいつも以上の実力を出し、全て○がついた人がほとんどだと思います。ところが、これが日常生活になるとどうでしょうか？学校に遅れてきたり、時々休んでしまう人もいます。提出物が遅れる人もいます。たとえ作業性が高くても仕事に遅れてくる人や、急に休む人は戦力になりません。作業性はそれほど高くなくても、毎日決まった時間に会社に来て、決められた手順を守って正確に作業ができる人を企業は求めているのです。『この人に仕事を任せても大丈夫（またはその見込みがある）』と企業の方が思ってくださいることが、雇用につながりつための大前提なのです。いつ休むか分からない、誰かが付いていないと手を抜く、手順を守らない、確認せずに自己判断で作業する人は問題外です。ただ例年、現場実習の反省会では、「よく頑張っていました。」「来てもらって助かりました。」等、事業所の方から優しい言葉をかけていただくことが多いです。進路が事業所に現場実習を依頼する際、将来の為にも厳しい評価をしていただけるようお願いしていますが、実際に厳しい評価を下して下さる事業所は稀です。なぜなら雇用を前提とした実習ではないため、実習生にそこまで多くのことを要求されないからです。しかし、実際に雇用につながりつ結合実習となった場合、状況は変わります。反省会では、優しい言葉ではなく、多くの課題が提示されます。雇用となると給料が発生するため見る目もシビアです。現場実習で褒めて頂いたことは素直に喜んでいいと思いますが、決して勘違いすることがないよう、自分の課題としっかり向き合ってください。日常の1つ1つが全て働く力と結びついていることを忘れずに、今後の学校生活をしっかり送って次の実習や、将来の結合実習に備えて力を付けて欲しいと思います。最後になりましたが、保護者の皆様には挨拶訪問に始まり、日々のお子様の送り出し、日誌の点検・コメント記入、反省会への参加でお世話になり、ありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。

